

東京農業大学の沿革

榎本武揚と横井時敬

創設者は、明治の英傑榎本武揚だ。明治政府で外相、文相、農商務相などの要職を歴任した榎本は、明治24年（1891）、東京に「私立育英黌」を設立した。その農業科が東京農学校、東京高等農学校と名を替えつつ、拡充の歴史を歩み、今日の東京農業大学となる。

東京農学校時代の明治28年、評議員として参画したのが、明治農学の第一人者横井時敬だった。「人物を畑に還す」「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」と唱えて、「実学」による教育の礎を築き、東京農業大学の初代学長を務めた。本学の「生みの親」は榎本、「育ての親」は横井である。

傘下に東京情報大学

東京農業大学は、農学部、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部、生物産業学部、短期大学部の6学部21学科からなり、大学院は2研究科19専攻体制が整っている。世田谷、厚木、オホーツク（北海道・網走）の3キャンパスに学生・院生ら約13,000人が学んでいる。

学校法人東京農業大学の傘下に、東京情報大学（千葉）がある。総合情報学部4学科、大学院1研究科で、学生・院生は約2,000人。傘下には、他に併設校として農大一高／中等部、同二高、同三高／附属中学がある。

学校法人東京農業大学広報部

今知られていること、伝えること「タロイモは語る」 「古農具展」—その技と美—

東京農大「食と農」の博物館

東京農大「食と農」の博物館で「今知られていること、伝えること『タロイモは語る』展（主催：助進化生物学研究所）」と「『古農具展』～その技と美～」（主催：東農大学術情報課程）が開かれている。同博物館の2012年度下半期の企画展で、13年3月24日（日）まで開催。（4ページに関連記事）



(写真上) タロイモの解説をする小西達夫進化生物学研究所研究員（元東京農大教授）

(写真右) 古農具の歴史的価値を解説する黒澤弥悦教授

